

第9回火山防災協議会等連絡会 議事録

- 日時 令和4年(2022年)8月4日(木) 14:45~16:00
場所 北海道庁地下1階危機管理センター
※関係(総合)振興局、市町村、防災機関、学識経験者とWEB会議を接続
議題 (1) 各火山防災協議会の取組状況
(2) 関係機関の取組状況・話題提供
(3) 火山噴火総合防災訓練について
(4) 火山防災協議会からの意見共有

○挨拶(北海道総務部危機対策局 吉川局長)

本日は大変お忙しい中、本連絡会にご出席いただき、ありがとうございます。また、日頃から本道の火山防災対策に多大なご尽力とご協力をいただいていることに心より感謝申し上げます。

今年度も昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症対策を考慮し、Web会議を活用しての開催としておりますが、Web会議で参加の皆様には、準備等でお手数をおかけしているほか、不便に感じるところはあることと思っておりますが、ご理解願います。

この連絡会は、各協議会同士が取組や課題等を情報共有するとともに、連携を促進し、火山防災対策を一層推進していくことを目的とし、平成27年から開催しているところであります。各協議会におかれましては、新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、取組を進めていくのが難しい部分もあったと思っておりますが、その中でも各計画の策定や訓練の実施など火山防災対策の取組を進めていただいているものと認識しております。本日はこうした各協議会や各関係機関における取組状況や協議会を運営していくにあたっての課題や要望等につきまして、情報共有を図ることにより、今後、皆様の取組の参考としていただきたいと思いますと考えております。

以上、簡単ではありますが、会議の開催にあたっての挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

○議題(1) 各火山防災協議会の取組状況

「資料2-1」「資料2-2」に沿って①~④の順に各総合振興局から説明

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| ①釧路総合振興局(アトサヌプリ、雌阿寒岳) | (地域創生部地域政策課 加藤主事) |
| ②上川総合振興局(大雪山、十勝岳) | (地域創生部地域政策課 千葉防災係長) |
| ③胆振総合振興局(樽前山、倶多楽、有珠山) | (地域創生部地域政策課 藤田主幹) |
| ④渡島総合振興局(北海道駒ヶ岳、恵山) | (地域創生部地域政策課 松村防災係長) |

<質疑>

(青山委員)

各火山で難しさがある山と、そうでない山、あるいは居住地に近い山、そうでない山とあることが大きな要因かと思っておりますが、避難確保計画の未策定の火山と完了している火山とで大きな違

いがある状況です。全くの未定で、なにも記載がない火山もあれば、完了している火山もあり、足並みが揃っていないのが現状かと思えます。

例えば、胆振管内であれば、倶多楽はすぐ近くに大きい温泉街があるということで、避難促進施設の選定自体が難しいだろうと想像します。火口想定域に多くの宿泊施設が存在している点で他の火山と違うという課題の提示もされていますが、隣の有珠山でも、洞爺湖温泉は想定火口域に隣接しているわけで、その辺りの横の連携で問題点の共有あるいは解決策の相談などをして、なるべく早く避難確保計画が策定できるように、振興局あるいは道危機対策課の方で、援助等を検討されているのでしょうか。あるいは、各協議会で確保計画策定のどの部分が難しいのかということ、上の組織に問題提起をされているのかなどの取組状況について、お伺いしたいと思います。

（北海道総務部危機対策局危機対策課 鈴木災害対策係長）

避難確保計画の横のつながりについては、道で具体的な調整を図るなどの動きはできていないのが現状です。当然、避難確保計画は早期に策定することが重要という認識は持っておりますので、各火山によって進捗に差があるのは、各火山それぞれの課題があることと思われまじ、各火山防災協議会単独で進めるには、難しい部分もあることと思えます。もちろん北海道も各火山防災協議会に参画しておりますので、今後、横のつながりについて道としてできることを協議会と検討していきたいと考えております。

（青山委員）

内閣府の会議で説明を受けた資料に、避難確保計画の作成支援事業がありました。これは、国からの個別支援という形になっています。令和元年度に始まったばかりの事業のようですが、これまでに道内で手を挙げた施設が、有珠山の洞爺湖町にある保育所の1点のみとのことです。他は全て本州以南の火山に係る施設となっています。内閣府からの一本釣りの作成支援事業だけでは、やはり難しいだろうと思えますし、倶多楽や有珠山のように火山の麓の自治体自体が抱えている大きな問題等もあることと思えます。

この連絡会が、横のつながりを意識した会議だと思えますので、火山の枠を越えた横のつながりを意識した情報共有や解決策の模索を進めていただきたいと思います。

（北海道総務部危機対策局危機対策課 清水課長）

ご指摘のとおり新聞報道等でも、火山防災計画で課題となっているのが、全国的にも避難計画の確保というところがございます。ここは、我々もこの課題を意識して、先行して整備している協議会の事例を、整備が遅れている協議会に紹介するというような取組などを積極的に行っていきたいと思えます。

（中川委員（座長））

青山委員のご発言に関連することですが、本日の連絡会においても、資料6として各火山防災協議会からの意見・要望を事前に募り、本連絡会で協議しようとしていましたが、あまり要望等がありませんでした。やはり、一方的に各協議会に意見を求めるのではなく、道危機対策課や振興局が積極的に問題提起をする必要があると思えます。特に、現状火山の活動が静かな北海道は、

そのような活動を行う時期として適しているので、早急に答えを出す必要はありませんが、これから議論を進めて、協議会同士の連携をとっていくべきだと思います。

さきほどお話のあった内閣府の実施事業についても、ただ協議会に通知するのではなく、道危機対策課や振興局が積極的に応募していくという動きも必要だと思います。各協議会は、道危機対策課や振興局に積極的に働きかけていただきたいと思います。

(北海道総務部危機対策局危機対策課 清水課長)

我々も重要と感じている点でございますので、本日いただきたいご意見を参考に、更なる取組強化を図って参りたいと思います。

○議題（２）関係機関の取組状況・話題提供

・今年度の気象台の取り組み

(札幌管区気象台気象防災部地震火山課 永澤火山防災官)

「資料３」に沿って説明

・恵山火山地質図について

(産業技術総合研究所地質調査総合センター 古川火山活動研究グループ長)

「資料４」に沿って説明

<質疑>

(青山委員)

気象台にお伺いします。資料３の６ページについて、変更後は、噴火警報の活動状況の説明を簡略化して、今まで本文に載せていた活動状況のようなものがあとから発表される解説情報であるということですが、そのタイムラグのようなものは、どのくらいかという説明がなかったかと思います。噴火したと情報が出たあと、例えば風向がこうだから風下がどちらかなどがわかる情報ですね。今まで本文に書かれていた情報が出てくるまでに、どれくらいの時間を想定されているのでしょうか。

(札幌管区気象台気象防災部地震火山課 永澤火山防災官)

噴火警報発表後の解説情報は、警報発表後から１０～１５分程度を目安に考えております。

(青山委員)

わかりました。そうすると変更前の噴火警報に比べて、新しい変更後では５～１０分程度早くなるというお話でしたので、従来の噴火警報が出るタイミングと、そこから５分以内程度の時間差で解説情報が出てくるという認識でよろしいでしょうか。

(札幌管区気象台気象防災部地震火山課 永澤火山防災官)

そのようになります。

(中川委員 (座長))

気象台にお伺いします。8ページについて、各火山の降灰予報サンプルを道内の火山で整備したいということですが、具体的に個々の火山の噴火の規模や気象の状況などは、どのように作っていく予定でしょうか。

(札幌管区気象台気象防災部地震火山課 永澤火山防災官)

降灰予報の説明用として各火山毎のサンプルを作成するというもので、各火山で想定している噴火の規模等を参考に降灰予報を計算する要素である噴煙高度を設定しています。

気象（上空の風）については、現在の気象状況を基に計算される仕組みの為、北海道ですと一般的に東に流されるような気象条件ではありますが、色々なパターン、状況に応じた作成は可能です。また、今回は降灰予報の説明のサンプルとして作成していますが、降灰予報は計算に用いる噴煙高度を自由に設定できますし、気象も計算条件の制約はありませんが、色々なパターンでの作成が可能ですので、例えば、訓練等では、訓練想定に合わせた降灰予報の作成というのも可能になりますので、もし要望等ありましたらお知らせください。

(中川委員 (座長))

それはよくわかります。噴煙高度を自由に設定するといっても、各火山でかなり違っていて、北海道駒ヶ岳のように噴煙が立ち上がる噴火が多い火山と、そうではない火山、水蒸気噴火の卓越するような火山など色々あると思いますので、結構難しいのかなと思いました。やはりハザードマップとの関係もあると思いますので、どのように使っていくかというのは、少し注意が必要かなと思いました。訓練等で、こういう場合という形で提示するのは非常に意味があると思いますが、予報として火山が静かな状態にそれを出すというのは、かなり注意が必要だと思いました。

○議題（3）火山噴火総合防災訓練について

- ・実施の毎年度化について
 - ・令和3年度有珠山火山噴火総合防災訓練実施状況報告
(北海道総務部危機対策局危機対策課 鈴木災害対策係長)
 - ・令和4年度大雪山火山噴火総合防災訓練について
(上川総合振興局地域創生部地域政策課 石川危機対策推進幹)
- 「資料5」に沿って説明

○議題（4）火山防災協議会からの意見共有

「資料6」に沿って進行

・アトサヌプリ火山防災協議会からの事項

（弟子屈町役場総務課防災情報係 根本防災対策官）

私は防災業務に携わり1年足らずですが、寝る前には今日は何もなくてよかった、朝起きると今日は何か起きるのではないかと安堵と恐怖の毎日であります。

特に火山防災については、気象災害と違い、時間的余裕もなく、地震よりも遙かに打撃力があり、恐怖の大きい災害であり、防災対策にここまでやれば十分ということはないと感じております。前任者が心血を注ぎ、気象台や中川先生等のご協力を得て、噴火警戒レベルに沿った行動指針というものを残していつてくれましたが、実際にうまく機能するかどうかは、やってみないとわかりません。

本日、協議会の皆様と情報共有する機会をいただき、各協議会で綿密な計画を作成されていたり、訓練の企画・実施をされていることを知り、今後勉強していく機会を与えていただいたことを嬉しく思っております。引き続き、よろしく願いいたします。

（北海道総務部危機対策局危機対策課 鈴木災害対策係長）

ありがとうございました。当課が事前にお伺いした際に、他の火山防災計画の良い表現を、アトサヌプリの火山防災計画にも反映させていきたいという旨のお話もいただいております。火山防災計画の作成にあたっては、まずは国が作成する防災基本計画の中の火山防災対策編であるとか、避難の観点でいいますと、内閣府から手引きも出されているところです。こういったものも参考にさせていただいて、不明点等ございましたら、道にお問い合わせ願います。

また、他の火山防災協議会との連携については、さきほど中川委員、青山委員からもお話がありました。道としても強く関わっていくべき点だと思っておりますので、他の協議会や関係機関からの情報提供が必要である場合は、道危機対策課あるいは関係振興局にご相談していただきたいと思います。

・雌阿寒岳火山防災協議会からの事項

（北海道総務部危機対策局危機対策課 鈴木災害対策係長）

火山噴火総合防災訓練については、さきほどの議題でも説明させていただきましたが、今後、毎年度実施を予定しております。来年度は雌阿寒岳で実施を予定しております。

今年度の大雪山訓練を例に挙げますと、協議会の事務局である東川町と上川総合振興局が中心となって、実施年度の前年度末頃から打合せを行い、訓練内容の調整等を行ってきております。今年度の5月には、関係機関の打合せを実施し、訓練内容や任務分担について調整作業を行っております。今後は、今月8月に訓練の参加機関を招集した調整会議を実施し、内容の調整を進めていく予定となっております。

訓練を実施する協議会に対しては、道から昨年度の準備スケジュールや実施状況等を共有させていただき、関係機関等との打合せがスムーズに進むよう、必要な対応をさせていただきたいと考えております。

ここからは情報提供となりますが、参考資料として内閣府からの事務連絡通知をお配りしております。こちらは火山防災訓練の実施検討支援を希望する地方公共団体の募集となっております。振興局を通じて、各火山防災協議会へお知らせしております。内容としては、訓練のシナリオ作成支援や資料作成の技術的支援となっております。内閣府からの通知から募集期限

までの期間が短い中でのお知らせとなりましたが、道内では1自治体から希望がありました。

道としては、今年度の大雪山火山噴火総合防災訓練での活用も検討しましたが、既に訓練に向けて東川町、上川総合振興局を中心に訓練計画作成を進めている段階でしたので、当事業への希望には至りませんでした。来年度以降は、当事業の動きに注視し、早めの周知をしてもらうよう内閣府に働きかけていきたいと考えております。来年度も当事業が実施されるかは未定ですが、このような事業を積極的に活用していきたいと思っております。

また、道は道危機対策課、渡島・上川・釧路の振興局には、危機管理の専門職として退職自衛官を採用しております。防災訓練の技術的支援についても、ご相談いただければと思っております。

・十勝岳火山防災協議会からの事項

(北海道総務部危機対策局危機対策課 鈴木災害対策係長)

「参考資料：ISUTについて」に沿って情報提供

(札幌管区气象台気象防災部地震火山課 永澤火山防災官)

「参考資料：火山噴火応急対策支援サイトについて」に沿って情報提供

(国土地理院北海道地方測量部 湯通堂防災情報管理官)

「参考資料：国土地理院の火山に関する防災情報」に沿って情報提供

(北海道総務部危機対策局危機対策課 鈴木災害対策係長)

各機関の皆様、ありがとうございました。

オンラインを活用した防災情報については、なかなか1つのサイトから全ての情報を得ることは難しいという現状がありますが、国を含めた関係機関の情報については、道としてもアンテナを張って確認をしていき、有用な情報を随時協議会の皆様へ提供できるよう努めて参ります。

<質疑>

(中川委員(座長))

今年度の大雪山火山噴火総合防災訓練について、お伺いします。大雪山の場合、主な避難対象が登山者と旭岳温泉の観光客、それと旭岳温泉の住民だと思っておりますが、東川町の中心部から遠く離れた場所になります。昨年度の有珠山での訓練とは状況が大きく違います。訓練実施場所は、東川町役場、東川町ビジターセンター、第2地区コミュニティセンター等となっておりますが、旭岳では訓練実施場所を設けているのでしょうか。

実際に登山者や観光客に向けた訓練は、想定されているのでしょうか。

(上川総合振興局地域創生部地域政策課 石川危機対策推進幹)

中川委員のご質問にあつたとおり、他の火山と大雪山ではかなり環境が違っています。

そのことを踏まえて、ビジターセンターというのは、旭岳温泉の施設です。そこで、観光客や登山客に向けた訓練を実施する予定としております。また、コミュニティセンターは、観光客等の避難先としての避難所訓練を実施します。東川町役場で合同本部を設置し、

突発的な噴火をした時に、登山者達をどのように救助していくかを検討していく形としたいと考えております。

○閉会（北海道総務部危機対策局危機対策課 清水課長）

本日の議題は以上でございます。

皆様お忙しい中、ご出席いただき誠にありがとうございました。

さきほど、避難確保計画の策定促進についてもご意見いただきましたけれども、道といたしましては、今後も引き続き、当連絡会の運営をはじめ、関係機関の皆様と連携しながら火山防災計画の策定や訓練の支援など火山防災対策を一層推進して参りたいと考えておりますので、皆様のご協力をよろしく申し上げます。

以上をもちまして、「第9回火山防災協議会等連絡会」を終了いたします。

以 上